

各関係機関団体の長 } 殿
各病虫害防除員 }

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

平成27年度病虫害発生予報第1号(4月)について

このことについて、病虫害発生予報第1号を発表したので送付します。

予報第1号

カキのフジコナカイガラムシの適期防除を徹底しましょう！

昨年10月上旬のカキの調査でフジコナカイガラムシの寄生果率は20.3%(平年16.4%、前年13.5%)、発生ほ場率は100%(平年90.6%、前年92.3%)と平年・前年より高かったため、本年のフジコナカイガラムシの越冬量が多いと思われます。

適期防除を失しないよう越冬幼虫が発生する4月下旬～5月中旬頃、並びに第1世代幼虫が発生する6月中旬～下旬頃の薬剤防除を徹底して下さい。

防除対策の詳細は、県ホームページに掲載している『病虫害・雑草防除の手引き』を参考して下さい。
URL : http://www.pref.fukuoka.lg.jp/uploaded/life/137505_50502708_misc.pdf



フジコナカイガラムシ雌成虫
体長約4mm



カキに寄生したフジコナカイガラムシ

<予想される向こう1か月の天候(平成27年3月28日～平成27年4月27日)>

天気は数日の周期で変わるでしょう。平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

向こう1か月の平均気温は高く、降水量はほぼ平年並、日照時間はほぼ平年並でしょう。

週別の気温は、1週目は高く、2週目は平年並か低く、3～4週目は平年並か高いでしょう。

向こう1か月の気温・降水量・日照時間(数値は予想される出現確率)

	平均気温	降水量	日照時間
九州北部地方	低10 並30 高 60% 高い見込み	少30 並 40 多30% ほぼ平年並の見込み	少 40 並30 多30% ほぼ平年並の見込み

(福岡管区气象台 平成27年3月26日発表抜粋)

4月における主な病害虫の発生動向は、次のように予想されます。

主な病害虫の発生予報概要

作物名	病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (4月の発生予報)	
		平年比	平年比	前年比
カンキツ	ミカンハダニ	並	並	並
冬春イチゴ	うどんこ病	並	並	—
冬春ナス	すすかび病	やや多	やや多	—
野菜共通	ミナミキイロアザミウマ コナジラミ類	少	少	—
		少	やや少	—

* (—) は未調査

作物別発生予報

注1) 予報の発生量は平年（福岡県の過去10年間）及び参考として前年との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。

注2) 予報の根拠には、巡回調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生状況、気象予報からみた病害虫の発生条件を必要に応じて記載しています。それぞれの条件は、少発生（－）、やや少（－～±）、並発生（±）、やや多発生（±～＋）、多発生（＋）として示し、＋を総合的に判断して発生量を予想しています。

【果樹：かんきつ】

1 ミカンハダニ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 3月5半月調査の結果、発生量は平年並であった(±)。

寄生葉率 3.1% (平年 3.5%、前年 3.9%)

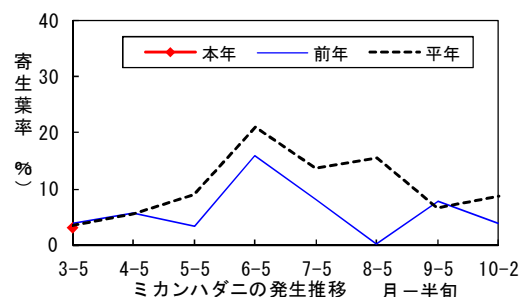
発生ほ場率 9.1% (平年42.6%、前年36.4%)

イ 向こう1か月の気象予報では、並発生の条件となっている(±)。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一薬剤の連用を避ける。

イ 農薬の使用及び散布等にあたっては、p 6の内容を確認の上、適切に実施する（以下の病害虫についても同様）。



【果樹：その他の病害虫】

作物名 病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (4月の発生予報)		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
かんきつ そうか病	並	並	並	・発芽直後～展葉期の薬剤防除を徹底し、初期発病を抑える。 ・罹病葉は伝染源になるので除去する。
かいよう病	並	並	並	・薬剤防除は発芽前・開花前の雨前予防散布が重要である

かき 炭疽病	—	やや少	並	<ul style="list-style-type: none"> ・新梢の伸長始めから硬化前まで感染するので、罹病枝の除去と栽培管理を徹底する。 ・薬剤防除は、天気予報の最高気温と最低気温の和が40℃以上で、降雨が予想される日の直前かあら開始する。
フジコナカイガ ラムシ	—	多	並	<ul style="list-style-type: none"> ・前年の発生量が多く、越冬量が多いと推測されるため、発生は多いと考えられる。 ・越冬幼虫の新梢への移動時期（4月下旬頃）から、薬剤防除を徹底する。 ・防除薬剤は天敵に対して、悪影響が少ない IGR 系殺虫剤を活用する。
なし 黒星病	—	並	並	<ul style="list-style-type: none"> ・薬剤防除は、開花直前から満開 20 日後が最も重要な時期である。
赤星病	—	やや多	並	<ul style="list-style-type: none"> ・赤星病の小生子の飛散ピークは近付いており今後の降雨に注意が必要である。

* (一) は未調査。なし、かきの発生量 (予想) は平成26年の調査結果及び気象予報から予想。

【野菜：冬春イチゴ】

1 うどんこ病

(1) 予報の内容

発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 3月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)。

発病株率 0.7% (平年 0.6%)

イ 向こう1か月の気象予報では、並発生の条件となっている(±)。

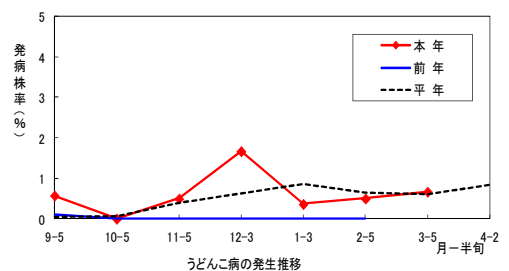
(3) 防除上注意すべき事項

ア ハウスの換気をこまめに行い、湿度の低下を図る。

イ 早期発見に努め、古葉かぎ後、薬液が葉裏にもかかるように丁寧に散布する。

ウ 同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

エ **農薬の使用及び散布等にあたっては、p 6の内容を確認の上、適切に実施する(以下の病害虫についても同様)。**



【野菜：冬春ナス】

1 すずかび病

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多

(2) 予報の根拠

ア 3月5半旬調査の結果、発生量は平年よりやや多かった(±~+)。

発病葉率 20.7% (平年 18.8%)

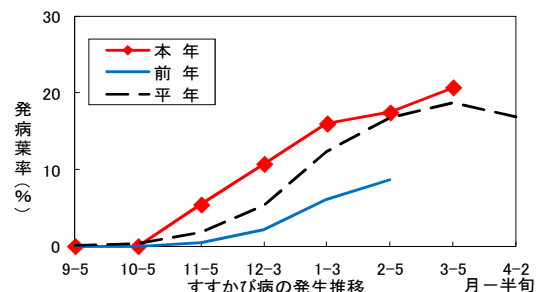
イ 向こう1か月の気象予報では、並発生の条件となっている(±)。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発病葉はできるだけ除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。

イ 病勢が進展すると防除が困難であるため、初期防除を徹底する。

ウ 同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



【野菜：共通】

1 ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報の内容

発生量：平年より少

(2) 予報の根拠

ア 3月5半旬調査の結果、ナスでの発生量は平年より少なかった（－）。

寄生葉率 0.14%（平年 9.0%）

イ 向こう1か月の気象予報では、やや多発生の条件となっている（±～＋）。

(3) 防除上注意すべき事項

ア ほ場内外の除草を徹底し、本種の増殖源を絶つ。

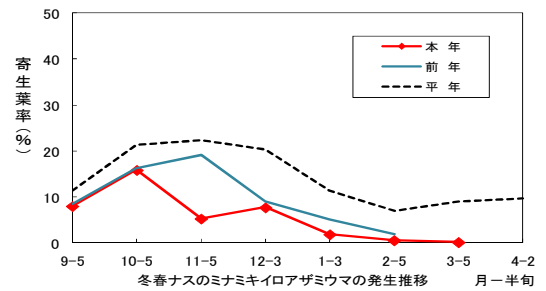
イ ハウス栽培では、施設間の移動・分散を防ぐため、0.4mm目以下の防虫ネットを天窓や出入口を含めて隙間なく張る。

ウ 葉裏への寄生が多いので、散布ムラがないように散布する。

また、多発した場合は、約1週間後にもう一度薬剤散布を行う。

エ 同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

オ 天敵を利用する場合は、薬剤の選定に留意する。



2 コナジラミ類

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少

(2) 予報の根拠

ア 3月5半旬調査の結果、ナスでの発生量は平年より少なかった（－）。

寄生葉率 1.6%（平年 4.8%）

イ 向こう1か月の気象予報では、やや多発生の条件となっている（±～＋）。

(3) 防除上注意すべき事項

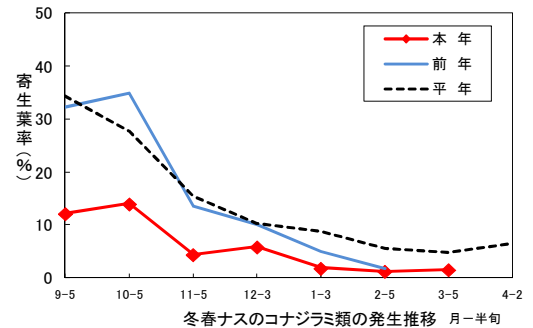
ア ほ場内外の雑草の除去を徹底し、本種の増殖源を絶つ。

イ ハウス栽培では、施設間の移動・分散を防ぐため、0.4mm目以下の防虫ネットを天窓や出入口を含めて隙間なく張る。

ウ 幼虫や蛹が寄生している下位葉は、できる限り除去する。

エ 葉裏や下位葉にも薬液が十分かかるように散布する。

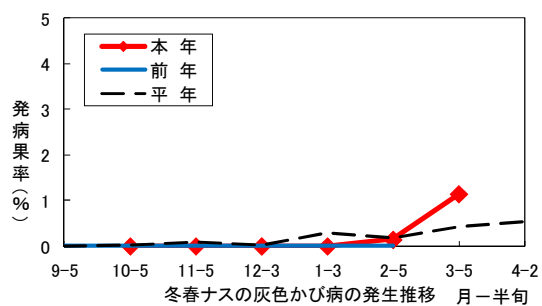
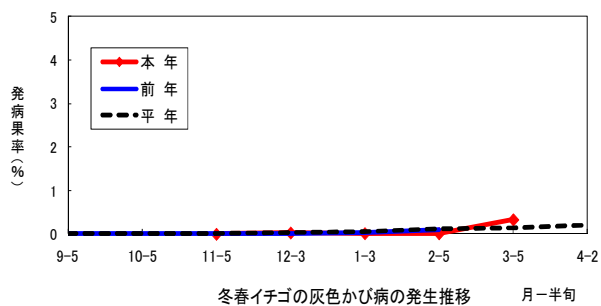
オ 天敵を利用する場合は、薬剤の選定に留意する。



【野菜：その他の病害虫】

作物名 病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (4月の発生予報)		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
冬春イチゴ 灰色かび病	並	並	—	<ul style="list-style-type: none"> 罹病果は見つけ次第除去する。 古葉かぎを随時行い、株間の通風を図って湿度を低下させる。
冬春ナス 灰色かび病	やや多	やや多	—	<ul style="list-style-type: none"> 罹病葉や罹病果実は早めに除去し、ほ場外へ処分する。

* (—) は未調査。



農薬の安全・適正使用、飛散防止対策の徹底を！

福岡県では、農薬の安全かつ適正な使用及び保管管理、使用現場における周辺への配慮を周知徹底するとともに、農薬による事故防止を目的として、安全使用講習会の開催や啓発チラシの配布等を関係機関、団体と一体となって取り組んでいます。

使用者の安全はもちろん、人畜・隣接作物・河川等への配慮について、ご指導をお願いします。

1 農薬適正使用の徹底

○適用作物、使用量や濃度、使用時期、総使用回数などが記載されたラベルをよく確認し、使用基準を遵守する。

※農薬の種類によっては、登録の内容がメーカーによって異なるので、ラベルをよく確認する。

(例：スミチオン水和剤40は、メーカーによって適用作物名や適用病害虫名が異なる)

2 飛散防止対策の徹底

○風の弱い時に散布する。

○風向、散布方向、散布時間、散布圧などに留意する。

○飛散しにくい農薬（剤型）や飛散が少ないドリフトレスノズルを使用する。

○散布ほ場周辺の収穫前の作物には十分注意する。

3 保護具の着用

○農薬の散布時には、ラベルの注意・警告マークをよく確認し、マスク、保護メガネ、ゴム手袋等を着用する。

4 農薬の散布後は、必ず散布器具を洗浄

○噴霧器、薬液タンク、ホースなどの散布器具を十分に洗浄する。

5 防除履歴の記帳

○農薬の散布が終わったら、作物名、ほ場の場所、使用年月日、薬剤名、使用濃度、使用量等を正確に記帳する。

6 空容器の処分

○空容器は、産業廃棄物処理業者に委託するなど、適切な処分を行う。

また、野焼きは法令で禁止されているので行わない。

福岡県病害虫防除所ではQRコードを作成しました。
携帯電話のQRコードリーダーでスキャンして頂くと病害虫防除所ホームページに簡単にアクセスできますので、御利用下さい。



福岡県病害虫防除所